

パルシステム埼玉

社会活動・環境レポート

2018



報告書発行にあたって



生活協同組合パルシステム埼玉
理事長 樋口 民子

パルシステム埼玉は食を中心とした商品の供給事業、共済・保険事業、電力事業などを展開し組合員のくらしに貢献する生活協同組合です。

いま国際的な目標として、2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）についての理解が広がってきています。SDGsの「誰一人取り残さない」「持続可能な社会づくり」という基本的な考え方はパルシステム埼玉の理念である「共生の社会を創ります」と同じです。この理念の下、パルシステムでは2014年から

「私たちの“選ぶ”が社会を変える」をキャッチフレーズに、商品の社会的、環境面な価値を理解したうえで、納得して選ぶことを呼びかける「ほんもの実感！くらしづくりアクション」に取り組み、2017年には第1回ジャパンSDGsアワードを受賞しました。パルシステム埼玉もこのほんもの実感の運動に事業と活動で一体となって取り組み持続可能な社会づくりを進めてきています。

生活協同組合は組合員が助け合ってより良いくらしをつくっていく組織です。組合員一人ひとりが食や農、環境、平和、福祉などくらしの課題に取り組み協同の力で解決していくことで発展してきました。私たちのくらしは地域社会とつながっています。今後はさらに子どもの貧困や高齢者問題など地域の社会課題に関わっていくこと、事業と活動でくらし課題の解決を地域に働きかけることが必要になっています。この報告書は2018年度のパルシステム埼玉の事業と組合員活動を中心とした社会貢献活動を網羅しています。パルシステム埼玉の取り組みにぜひご理解をいただき、地域のみなさまと連携して一緒に「安心してくらせる埼玉」を作っていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

理 念

心豊かなくらしと
共生の社会を創ります。

ミ ッ シ ョ ン

互いに支えあって
安心してくらせる埼玉を
つくりまひす。

2020年ビジョン

- ① 事業と活動を通じて、地域に助け合ひの輪を広げまひす。
- ② 他団体や行政と力を合わせて、高齢者福祉、子育て支援を推進まひす。
- ③ 生産者と協同して、食の安全と日本の農業を守りまひす。
- ④ 環境負荷を削減し、持続可能な社会をつくりまひす。
- ⑤ くらしの変化に合わせた事業改革を実現し、より安定した経営基盤をつくりまひす。

パルシステム埼玉とは

生活協同組合パルシステム埼玉は、埼玉県全域で事業と活動に取り組んでいます。

県内に配送センター8か所、組合員活動施設1か所を有しており、食の「安全・安心」と組合員一人ひとりの思いを大切に地域に根ざした生協を目指しています。

地産地消、環境に配慮した環境保全型農業の推進など「食」と「農」を通じて、パルシステムならではのくらしに貢献する事業や活動を進めていきます。

組織概要

(2019年3月末現在)

名 称	パルシステム埼玉
設 立	1951年5月
代 表	理事長 樋口 民子 専務理事 横山 博志
組 合 員 数	208,889人
出 資 金	75.6億円
事 業 高	272.7億円
職 員 数	604人(うち正規職員106人)

厚生労働大臣表彰

2018年10月30日(火)、消費生活協同組合法(生協法)施行70周年を記念した厚生労働大臣表彰を受賞しました。この表彰は、「法の理念にのっとり健全な事業運営を行い、他の模範と認められる」生協を対象に表彰する制度で、5周年ごとに実施されています。全国の生協の中から30の組合と40名の役員・元役員が受賞、このうちパルシステム埼玉は、組合として表彰を受けました。



パルシステム埼玉の事業



供給

農薬や添加物にできるだけ頼らない商品や化学調味料不使用の加工品など、おいしく安全な商品を玄関先までお届けする生協の宅配事業です。くらしに合わせて選べるカタログ「コトコト」「きなり」のほか、カタログのお届けがないアプリ完結の「タベソダ」、カタログで選んだ商品をアプリから注文できる「ぼちパル」、注文した食材やお届け履歴がラクラク管理できる「まめパル」など、スマホ向けサービスも充実し、県内8センターから埼玉全域を週11万人の組合員に配達をしています。



共済

CO・OP共済は、入院・手術・けがなどを幅広くカバーした「たすけあい」を中心に、「あいぶらす」、「ずっとあい」等、お手頃な掛金の保障で組合員のくらしをサポートします。ライフプラン活動等、多くの組合員にCO・OP共済を知っていただく活動を通じて、『助け合い』の輪を広げています。



サービス事業

歴史のあるパルシステム埼玉オリジナルサービスのプリユ葬のほか、株式会社ティア、株式会社セレモニーの3社が葬儀を施行しています。多様化する組合員のニーズに合った葬祭サービスを提供し、組合員が安心して暮らせるくらし全般のサポートを行なっています。

電力事業

電力自由化に伴い、2017年4月より、パルシステム埼玉でも電力をひとつの事業として「パルシステムでんき」を推進しています。原子力や化石燃料に頼らず、太陽光や水力、バイオマスなど自然の力を生かした再生可能エネルギー（FITでんき）により得られた電力を中心に供給しています。



施設の役割について

世代を超えたさまざまな人々が集う「コミュニティの中心・拠点」として、組合員はもとより地域の方にも広くご利用いただけるパルシステム埼玉の組合員活動施設。会議室や多目的室、調理室で毎日のように学習会やイベントが開催されています。また毎週金曜日には、地域で子育て中の親子の交流の場として「親子ふれあいサロン」を開催しています。



利用実績について

組合員や地域の方などによる食育活動、平和学習会、居場所づくり講座、ヨガやフラダンスなどのカルチャー講座、フレイル予防企画など、さまざまな学習会や企画が開催されています。

コミュニティスペースは「まちのクールオアシス」「赤ちゃんの駅」にも登録されており、どなたにでもご利用いただけます。予約や登録なしに無料で使用できるので、組合員だけでなく、地域住民の方も買い物帰りの休憩や打ち合わせなどで利用されています。2階のスペースにはおもちゃや絵本もあり、安心してお子さまを遊ばせることができます。



ぱる★てらす 利用者 VOICE

毎週さまざまなイベント内容で楽しく参加させてもらっています。
授乳室、おむつの交換台もあり、安心して気軽に行けるのもうれしいです。
お友達と遊んだり、ママ同士で情報交換したりして、とてもいい気分転換になっています。





パルシステム埼玉が めざすもの



困りごととは助け合い、 体も心も休まる暮らしづくり。.....08

暮らし、いきいきと

いきいきと誰もが安心して過ごせる社会のため、パルシステム埼玉独自の制度「いきいきネットワーク」の導入など、互いに支え合える地域社会づくりをめざしています。

また、埼玉県の高齢社会の問題に対し、パルシステム埼玉独自の見守り活動を始めるなど、地域に密着した取り組みを行なっています。



親だけじゃない。 地域の目や手も大きな支え。.....12

みんなで子育て

パルシステム埼玉では子育てがしやすい地域社会づくりに向け、さまざまな取り組みを行なっています。ママカフェ企画では、ママ同士でゆったりと交流できる場を提供しています。



食の安全を守るため、 作る人と食べる人をもっと身近に。.....13

パルシステムとの絆

私たちが大事にしている「食の安全・安心」が今の品質まで高められたのは、生産者、組合員とともに取り組み、歩んできたからこそといえます。今後も「食育」の大切さを次世代へ伝えるための活動を引き続き推進していきます。



次の世代に残すのはどんな地球？ 一人ひとりが環境を守る担い手に.....16

変える一歩

パルシステムでは、CO₂削減、3R運動(リデュース・リユース・リサイクル)、石けん生活のすすめ、産地とともに環境保全など、さまざまな場面で人や環境にやさしい社会づくりを目指しています。



過去に向き合い これからの平和を考える。.....18

尊さを学ぶ

パルシステム埼玉は「心豊かな暮らしと共生の社会を創ります」の理念をもとに、命を大切に、一人ひとりが尊重された、誰もお互いを認め合い安心してらせる社会をつくるために平和活動を進めます。





いつでも 安心して生活できる町に



見守り協定

2013年、高齢者の孤独死の防止を目的に、「配送の気づき」を形にし、組織全体で地域を支えるパルシステム埼玉の見守り活動が始まりました。

配送時にお届けした荷物がそのままになっているなど、毎週訪問する配送員が、異変を感じた場合に地域包括支援センターなどに連絡しています。

2019年3月現在、47市町1団体と見守事業の協定締結及び登録を行なっています。



いきいきネットワーク

「いきいきネットワーク」は、互いに支え合って安心してらせる地域社会を目指し、地域のくらしの困りごとを援助する制度です。「困ったときはお互いさま」「わたしにできることなら…」という気持ちで、パルシステム埼玉の登録した組合員が応援活動に入ります。活動内容は家事援助（掃除、洗濯、買い物等）、お子様の送迎、病院の付き添いなど多岐に渡ります。



見る、知る、参加する 風化させない支援の輪



被災地視察

東日本大震災の被災地を実際に訪れる「被災地スタディツアー」は、震災によって何が起こり今はどうなっているのか、参加者の目や耳を通して、直に感じ取ってもらおうと毎年実施しています。

11月3日～4日、宮城県南三陸町の被災地視察を行い、組合員と役職員25名が参加しました。震災からの復旧の様子や復興への歩みを見て、知って、考えるとともに、震災の体験や教訓から今後の防災の知恵を学ぶ場にもなっています。



南三陸町スタディツアー

ふたばおしゃべりサロン

福島県双葉町社会福祉協議会「いきいきサポートセンター」（埼玉県加須市）で2014年から、パルシステム埼玉とその他2団体が支援し、月1回、双葉町昼食交流会を行なっています。本交流会は、東日本大震災以降、埼玉県加須市近辺で避難生活を送る福島県双葉町出身の方同士に、気軽に交流できる場として開催されています。



ふたばおしゃべりサロン

CLOSE UP

認知症サポーター

「認知症サポーター養成講座」を職員及び組合員向けに開催し、認知症を正しく理解することで、認知症の人や家族を温かく見守る応援者になります。

消費者被害防止サポーター

悪質商法が増え続ける中、消費者被害の実態を知り、家族や地域を守る術を学ぶため「消費者被害防止サポーター養成講座」を開催しています。



東日本大震災復興支援助成金

東日本大震災復興支援助成金は、東日本大震災による被災地及び被災者への支援を行う団体に対し、パルシステム埼玉が社会貢献活動の一つとして資金面で支援していく制度で、2015年に始まりました。組合員を交えた運営委員会による審査と選考により、4団体へ、総額1,365,000円が助成されました。



東日本大震災復興支援助成金贈呈式



地域を支える しくみづくり

地域貢献

市民活動支援金

パルシステム埼玉市民活動支援金は、福祉、環境、まちづくり等をテーマに、NPOやボランティア等が担うさまざまな市民活動に対し、パルシステム埼玉が地域社会貢献活動の一環として、資金面で支援していく制度です。市民活動支援金運営委員会による選考の結果、2018年度は6団体が決定し、総額200万円が助成されました。



セカンドリーグ埼玉

地域の課題解決に取り組む団体や個人の方々に支援する目的で、パルシステム埼玉が設立した特定非営利活動法人です。現在、セカンドリーグ埼玉は、埼玉県南部地域を中心に、高齢者生活支援、子育て、障がい者支援、環境保全活動など幅広いジャンルで活動されている市民や団体の中間支援活動を行なっています。

災害協定

2013年に蕨市と蕨市内における、地震、風水害その他の災害が発生、又は災害が発生するおそれがある場合の、一時避難場所の提供及び物資の運搬を想定した協定を結びました。

2018年度は寄居町と「災害時における生活物資の供給協力に関する協定」を締結しました。

西日本集中豪雨支援報告

7月に発生した集中豪雨によって、西日本の各地が大きな被害を受けました。パルシステム埼玉は「西日本豪雨緊急支援募金」を実施し、多くの組合員より募金が寄せられました。

9月4日～7日の4日間、日本生活協同組合連合会からの要請に基づき、広島県内のボランティアセンターの運営支援として、パルシステム埼玉の職員を1名派遣しました。



青空市

毎年、8つある配送センターでセンター祭り「青空市」を開催しています。日頃お世話になっている組合員や地域みなさんに感謝の気持ちを込めて、産直青果・人気商品の販売やじゃんけん大会など工夫を凝らした楽しい企画でもてなします。



メーカー担当者との交流（入間センター）



楽しんでいただけるよう笑顔で出迎え（三芳センター）



大人気のじゃんけん大会（白岡センター）



青果販売は大賑わい（蕨センター）

フードバンク

市場性を失った食品を、必要としている福祉施設・団体等や生活困窮者へ無償で提供するフードバンク活動。パルシステム埼玉は、特定非営利活動法人フードバンク埼玉に協力し、青空市、商品展示会などのイベントで、家庭で余った食品の寄付を呼びかけるフードドライブを実施しています。この取り組みは組合員活動のところでも行なわれ、徐々に広がりを見せています。



社会実習・インターンシップ

パルシステム埼玉では、配送センター近隣の中学校からの職場体験を受け入れています。

また2018年度、大学生4名のインターンシップ実習も受け入れました。配達や営業の体験に加え組合員活動補助などを体験していただきました。また、若手職員との懇談の場を設け、就職活動やパルシステムについての理解を深めていただきました。





生活サポート

心とくらしに 寄りそいます



子育てサポーター

子育て中のママやパパが親子のふれあい、食育、仲間との出会いを大切に感じられるように、気軽に集まれる交流と仲間づくりの場を提供します。ちょっと先輩ママの組合員である子育てサポーターが、乳幼児を対象とした手遊び、読み聞かせ、スキンシップ、工作などを行います。

活動内容

子サポのママカフェ

なかなか自分たちの時間が取れない0～2歳のお子さんのママを対象に子育てサポーターの指導のもと親子同室で手遊びや読み聞かせ、簡単なおもちゃなどの製作をします。後半には、ママ同士で話したりゆっくりお茶の時間を楽しんでもらう場を提供しています。



LPA（ライフ・プラン・アドバイザー）

LPA（ライフ・プラン・アドバイザー）は、養成講座を受講して資格を取得した組合員が、保険や社会保障制度など、くらしのお金についての知識を組合員に広めています。

活動内容

生活の中のさまざまなお金の知識（給与、税金、年金、医療費など）を組合員に伝える活動をしています。「親子でおこづかいゲーム」では、スゴロク型のおこづかいゲーム『ニーズ&ウォンツ』を使って親子で楽しみながらお金について学びました。



楽しく学んで「親子でおこづかいゲーム」

最近、若い世代にも関心が広がっているエンディングノート。講座では、LPAオリジナルのエンディングノートを使って、大切な家族やまわりの人に残したいことを書き留めておく大切さを伝えました。

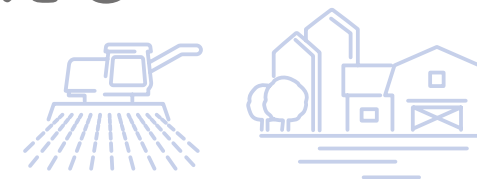


備えて安心「エンディングノート」



食育

食べることの大切さを 次世代に伝える



食育サポーター

食育サポーターは、パルシステム埼玉の「食育の定義」や「食育のすすめ」に沿った食を提案し、食育活動を推進する活動組合員です。地区会やテーマグループなどが主催する料理教室や各種学習会での講師、レシピ提案を行なっています。



活動内容

機関誌『あすーる』の表紙、裏表紙のレシピ提案と調理も食育サポーターの活動のひとつです。作りやすいレシピで組合員から好評の声が寄せられています。



親子料理教室では、たくさんの親子が、うどん作りに挑戦しました。だしの飲み比べで味と風味の違いを確かめ、今まで料理をしたことがないお子さんは、お母さんに助けられながら一生懸命に頑張りました。



親子料理教室「手打ちうどんを作ろう!」

PLA（パルシステム・ライフ・アシスタント）

養成講座を受講した組合員が、生産者・製造者の思いとともに、パルシステム商品に関するさまざまな情報を正確に把握し、組合員の視点で伝えます。

活動内容

身近な環境と家族の健康を願う組合員の思いが詰まったパルシステムの石けんについて、特長や上手な使い方を実演を交えながら伝えました。また、参加者の石けんに関する悩みことを解消しながら、くらしに役立つアドバイスをしました。



「お子様のためにナチュラルライフをはじめよう!」

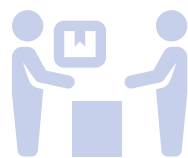
パルシステムのPB商品の調味料の原材料や製法のこだわりをわかりやすく説明し、市販品と違いを組合員に実感してもらいました。



安心・安全な調味料を見極めよう



組合員とともに よりよい商品づくりを



商品展示会

2018年度は、9月17日(月・祝)東部地域振興ふれあい拠点施設ふれあいキューブ(春日部市)で、「商品展示会 2018 in 春日部」を開催し、組合員とその家族、友人など約1000人が来場しました。

商品展示会は、展示や試食を通じてパルシステム商品のこだわりの製法や安全・安心の取り組みをメーカーや生産者から直接聞くことができる貴重な機会です。今年のテーマは「生産者・メーカーと会おう、話そう、伝えよう!」。当日は、40社が出展し、来場者と交流を深めました。



組合員開発商品

2018年度は、「歯ッピータイム☆」のチームメンバー7名が、防腐剤無添加の子ども用ジェル歯みがきの開発に協力。甘さ、爽快感、香りのバランスのとれた『こどもはみがき(アップルミント) 50g』が完成し、6月に新商品としてカタログに登場しました。



公開確認会

公開確認会は、組合員が産地を訪れ、農畜産物の生産方法や安全性を直接確認するとともに、生産者と消費者が理解し合い、課題や情報を共有して次につなげていくパルシステム独自の取り組みです。パルシステム埼玉では、昨年9月21日、22日にJAふくおか八女(福岡県)で「みかん」を対象に開催しました。



地域交流

顔の見える交流を もっと身近に



『農・彩・土』

埼玉産直協議会『農・彩・土』は、2011年に埼玉県内産直産地の沃土会、南埼玉産直ネットワーク、パルシステム連合会、(株)ジーピーエス、パルシステム埼玉の5団体で生産者と消費者の交流を通じて地産地消をすすめ、県内の農業と環境を守ることを目的に設立しました。



沃土会

深谷市を中心に深谷ねぎをはじめ、野菜全般を生産しているパルシステムの産直産地です。自然を大切に微生物を利用した有機減農薬・無農薬栽培で野菜作りに取り組んでいます。パルシステム埼玉とは、20年以上提携しており、組合員参加型の交流企画が活発に行われています。



南埼玉産直ネットワーク

さいたま市岩槻区と吉川市でパルシステム商品の野菜(長ねぎ・小松菜・ほうれん草・ルッコラなど)を栽培している生産者グループです。組合員が参加する田んぼ交流では、田植えから稲刈りまで指導していただいています。生き物観察では、そこに棲む多様な生物の様子や周辺の環境とのつながりを学びます。



産直講座

パルシステムの産直産地より生産者を迎えて学習会を開催します。2018年度は5回開催し、103名の組合員が参加しました。生産者は商品の魅力や栽培のこだわり、苦労などを伝え、組合員から商品への評価や励ましの声を直接聞く機会となりました。





くらしや地域と向き合い、めざすのは持続可能な環境



COOL CHOICE

パルシステム埼玉は、2019年3月に「COOL CHOICE」の取り組みに賛同しました。「COOL CHOICE」は、環境省が推進する地球温暖化対策で、省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など、快適なくらしにもつながる「賢い選択」をしていこうという運動です。



グリーンカーテンコンテスト

グリーンカーテンは、日差しを遮ることで室内の温度上昇を防ぎ、エアコンの使用を減らすなど夏の節電・省エネルギー対策に有効です。昨年度は家庭でのCO₂量削減を図ることを目的に組合員向けのコンテストを開催しました。商品展示会で参加者投票を行い、18件の応募の中から最優秀・優秀作品が選ばれました。



大豆トラスト運動

大豆トラスト運動は、組合員が一定の区画にお金を出して国産大豆を作り、耕作放棄地を活用しながら大豆の自給率を高めようというもの。パルシステム埼玉では、2005年に児玉郡神川町で大豆トラスト運動をスタートさせ、毎年神川農業グループと株式会社ヤマキの協力を得ながら有機栽培で大豆作りを行なっています。



うちエコ診断

「うちエコ診断」は、環境省認定の公的資格を持つ「うちエコ診断士」が、ご家庭の年間エネルギー使用量や光熱費などの情報をもとに、専用ソフトを用いて診断を行うもので、ライフスタイルに合わせた無理なくできる省エネ対策を提案します。



電気自動車リーフ

2011年の東日本大震災後のガソリン供給量の不足などを受け、車両燃料不足のリスク分散として試験導入しました。蕨本部にEVパワーステーションを設置し、電気自動車への充電および災害時の停電などに備え、電気自動車から電気を供給できるようにしています。



埼玉打ち水の環 2018

夏の風物詩の打ち水を埼玉県内に広げる活動「埼玉打ち水の環2018」に参加しました。全8センターとばる★てらすで、雨水や畜冷剤の洗浄に使用した水など、二次用水を利用して水をまき、ひとときの涼を感じました。



CO₂排出量 総量削減の取り組みについて報告します。

①環境目標に対する実績

項目	年間目標値	実績	進捗	評価
CO ₂ 排出量	1,935,300kg	1,743,651kg	90.1%	○

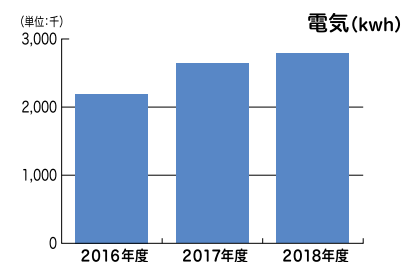
- 12月から1月にかけて東松山・入間・川越（一部）をパルシステムでんきに切り替え、全事業所で再生可能エネルギーを中心とした電気を使用しています。
- 冷凍品用の蓄冷剤導入により冷凍庫の電気使用量が増加傾向にありますが、CO₂の排出量が少ないパルシステムでんきに切り替えをすすめたことで計画内に収めることができました。
- 車両から排出されるCO₂の削減では13台を低燃費車両へ切り替えました。
- 本部・蕨センターと川越センターに出力20kwの太陽光発電設備を設置しています。発電した電力は事務所部分で使用し電力使用量を軽減しています。2018年度4月から2019年3月までの2センターの合計発電量は35,286 kwhでした。

②CO₂排出量 ※電気・ガス・燃料

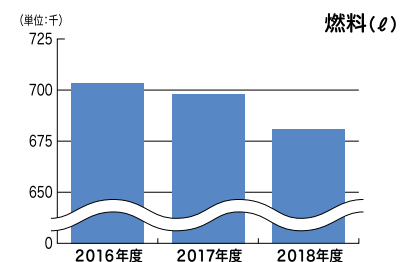
	2016年度	2017年度	2018年度
電気由来	397,360kg	639,544kg	372,843kg
ガス由来	1,301kg	1,080kg	989kg
燃料由来	1,357,828kg	1,395,425kg	1,369,819kg
排出量計	1,756,489kg	2,036,050kg	1,743,651kg

※以下のCO₂排出係数をもとに計算しています。
電力：パルシステムでんき2016年度0.089、2017年度0.182、2018年度0.105、東京電力0.423 燃料：LPG1.681、ガソリン2.322、軽油2.624 ガス：6.094

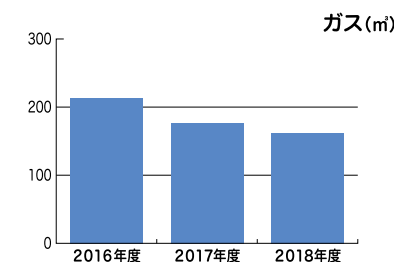
③電気使用量



④車両燃料使用



⑤ガス使用



⑥組合員活動施設「ばる★てらす」の状況

- 1月からパルシステムでんきに切り替え再生可能エネルギーを中心とした電気を使用しCO₂排出量の削減を図りました。
- 出力8 kwの太陽光発電設備を設置しています。発電した電力は事務所部分で使用し電力使用量を軽減しています。2018年度4月から2019年3月までの合計発電量は8,686kwhでした。

	2016年度	2017年度	2018年度
電気使用量	38,711kwh	45,367kwh	45,426kwh
ガス使用量	106m³	171m³	132m³
水道使用量	180m³	294.6m³	272m³
太陽光発電	7,684kwh	8,620kwh	8,686kwh
CO ₂ 排出量	17,021kg	20,232kg	15,606kg

⑦リユース・リサイクル回収状況

	米袋		注文用紙		商品カタログ		資源プラスチック		紙パック	
	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度
受注量	14,894	13,563	57,022	55,863	2,722,303	2,734,145	149,251	149,034	104,268	97,000
回収量	5,615	5,905	47,642	46,040	1,905,679	1,998,127	43,106	42,896	71,336	68,452
回収率	37.7%	43.5%	83.6%	82.4%	70.0%	73.1%	28.9%	28.8%	68.4%	70.6%

	たまごパック		ペットボトル		ABパック・ヨーグルトカップ		「お料理セット」トレー		リユースびん	
	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度
受注量	107,415	106,699	29,436	36,912	47,499	44,619	9,046	12,695	496,860	470,427
回収量	85,475	83,987	16,445	20,303	11,439	11,639	5,270	8,440	315,558	306,749
回収率	79.6%	78.7%	55.9%	55.0%	24.1%	26.1%	58.3%	66.5%	63.5%	65.2%

2018年度は米袋、商品カタログ、紙パック、ABパック、ヨーグルトカップ、「お料理セット」トレー、リユースびんで回収率増加、その他の品目で回収率減少となりました。回収率が向上した品目についても、商品カタログと「お料理セット」トレーを除いては受注量の減少が主な要因と考えられます。一方、供給量が大幅に伸長した「お料理セット」トレーでは受注量の伸びを上回る割合で回収量が増加し、同様に受注量が大幅に伸長したペットボトルも回収率としては前年を下回ったものの、回収量では前年比123%と大きく増加しました。



平和国際

考えて、参加して 平和な暮らしをつくろう



ピースアクション in ヒロシマ

昨年8月4日～6日、3家族8名の組合員(大人3名、子ども5名)と役員3名が、日本生活協同組合連合会と広島県生活協同組合連合会との共催の「ピースアクション in ヒロシマ」に参加しました。被爆から73年が経った昨年は「ヒロシマの心を知って次世代のあなたへ ～知って、感じて、動き出そう～」をテーマに取り組み、被爆地ヒロシマで被爆の実相を知り、核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを学びました。



平和学習会

2017年、核兵器を初めて法的に禁じる核兵器禁止条約の採択に主導的な役割を果たした、国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN=アイキャン)へのノーベル平和賞受賞をうけ、ICANの国際運営委員で、ピースポート代表の川崎哲氏を講師にお招きして、オスロでの授賞式の様子や、ICANの活動についてご講演いただきました。



オイスカ「楽器をフィリピンに贈ろう」

毎年3月末～4月初旬にかけ、組合員に使わなくなったリコーダーや鍵盤ハーモニカなどの楽器と柔道着の寄付を呼びかけています。提供された楽器や柔道着は国際NGOオイスカ茨城推進協議会に引き渡し、ボランティアによる清掃、消毒作業後、船積みされてフィリピン(一部はスリランカ・ラオス)に運ばれます。現地の小学校では贈られた楽器を使ってコンサートを開き、柔道着はネグロス島の大学での犯罪学の授業に役立っています。



ヒバクシャ国際署名

パルシステムグループ全体で「被爆者が訴える核兵器廃絶にむけた国際署名(ヒバクシャ国際署名)」に取り組みました。ヒバクシャ国際署名は、2016年の国連総会で、2017年からの「核兵器禁止条約」交渉決議が採択されたことで、平均年齢80歳を超えたヒロシマ・ナガサキの被爆者が世界に賛同を呼びかけたものです。2018年度は、パルシステムグループでは47,587筆、パルシステム埼玉では、9,962筆が寄せられました。これにより、2017年度からの累計では、パルシステムグループで22万9,795筆、パルシステム埼玉で35,427筆となりました。今後パルシステムは、2020年まで署名活動を行います。



日韓子ども交流

2000年に始まった韓国ブルドゥレ生活協同組合との子ども交流が7月28日～31日、の3泊4日で行なわれました。1年ごとにお互いの国を訪問する交流で、2018年度は、日本から12名の子どもたちが訪韓し、韓国の子どもたち13名が迎えてくれました。いっしょに韓国伝統のお菓子を作ったり、平和動画を制作するなど、言葉の壁を乗り越え交流を育みました。

再開を誓って握手を
交わします。▶



◀子どもたちが平和について
考えました。



平和募金

パルシステム埼玉では、戦争や貧しさの中にくらす子どもや女性のために国際支援を行なっているNPOやNGOと協力して毎年「パルシステム埼玉平和募金」に取り組んでいます。

2018年度も組合員に募金を呼びかけ、現金とポイントカンパを合わせて64万1,527円が集まりました。

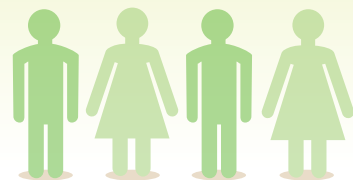


支援団体

- 特定非営利活動法人
シャプラニール=市民による海外協力の会
- 特定非営利活動法人
パレスチナ子どものキャンペーン
- 特定非営利活動法人
チャイルド・ファンド・ジャパン
- 特定非営利活動法人 APLA
- 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
- 特定非営利活動法人アジアを紡ぐ会



人材育成



教育プログラム

パルカレッジ

教育研修カリキュラム「パルカレッジ」にのべ103名が参加し、「商品知識」や「生協の役割」など階層ごとに必要な知識を習得しました。



産地研修

県内産地の米作り体験や遠隔産地の田んぼの草取りなどの産地研修にのべ44名が参加しました。



キャリア形成教育

資格取得促進・ジョブローテーション・職員提案制度などを体系化しキャリア形成教育と位置付け、組織の活性化につなげています。



障がい者雇用

埼玉県障害者雇用優良事業所の 認証更新

各事業所で障がい者雇用を促進し、優良事業所として継続認証されています。

障がい者雇用率

2016年度	2017年度	2018年度
3.07%	2.76%	2.62%

『埼玉県知事表彰』を受賞

9月14日に埼玉県主催の高齢者・障害者雇用について理解を深めるイベント「埼玉県高齢・障害者ワークフェア2018」でパルシステム埼玉が『埼玉県知事表彰』を受賞しました。

この賞は、障害を克服し、模範的な職業人として業績をあげている優秀勤労者と、障害者や高齢者を積極的に雇用している障害者雇用優良事業所及び高齢者雇用優良事業所を対象としています。



その他

女性の活躍推進

すべての職員が活躍できる職場づくりをめざし、自主行動計画を策定しています。新卒採用を積極的に進め、正職員の女性比率の向上に取り組んでいます。

女性正職員比率

2016年度	2017年度	2018年度
18.6%	20.6%	20.6%

ウッドスタート宣言 調印式

東京おもちゃ美術館と「ウッドスタート宣言」の調印式を行いました。埼玉県内の企業として初の取り組みとなり、県内で同様の宣言をした2つの自治体（ときがわ町、秩父市）とも連携しながら、国産材の活用や木育への取り組みを進める予定です。



内部統制



コンプライアンスについて

“コンプライアンス”とは、「法令の主旨、精神、企業倫理に従った行動」を指します。組合員数20万人を超える生活協同組合として、コンプライアンス体制の構築は社会的責任のひとつです。パルシステム埼玉では2014年2月に、コンプライアンス規程を制定し、全役職員が業務遂行にあたり、行動規範（各職員が常時携帯）に従い、関係法令、定款、規程等を遵守し日常業務を効率的かつ効果的に遂行することを明記しています。

コンプライアンスに対する違反行為は、社会的な影響力が大きいため、日常のリスク回避行動は、欠かせません。各部門、事業所においては、月次点検を通じて、自らの職場におけるコンプライアンス状況を振り返る取り組みを行っています。さらに、役職員に対する関連教育の実施、年1回の総合内部監査、全職員を対象にした関連アンケート、職員への聞き取り調査などを通じて、コンプライアンス体制の維持を行なっています。

情報セキュリティについて

パルシステム連合会では、パルシステム埼玉をはじめとする会員生協の情報資産の管理・運用を含めた総合的な情報セキュリティ体制を構築しています。その中で「パルシステム連合会・個人情報保護・情報セキュリティ委員会」を会員団体で構成しています。この委員会では個人情報及び情報システムに

関する事故を未然に防止する対策を講じていると同時に運用マニュアルの監修も行っています。

組合員の個人情報保護は、月次点検や内部監査、役職員に対する年2回の教育を実施し、厳重な管理体制を構築しています。

個人情報保護法について

2017年5月の法改正を踏まえ、関係する規程類を理事会で改定しました。また、パルシステム埼玉の個人情報保護姿勢を示した「個人情報保護方針」も法改正の主旨を反映した改定を行っています。この改定は、パルシステム連合会をはじめ、パル

システム埼玉を含む首都圏3生協間で方針基調を整合させた改定となっています。パルシステムグループ全体として情報セキュリティ体制を協調させる取り組みとなっています。

パルシステム埼玉の広報

機関誌 『あすーる』

組合員とパルシステム埼玉をつなぐ月刊誌として、組合員のみなさんに伝えたことを編集会議で決定し作成しています。



情報誌 『あすーるポケット』

あすーるポケットはパルシステム埼玉、組合員、その他団体が運営する企画について参加を呼びかけるために発行しています。



ホームページ

事業や組合員活動の報告、あすーるポケット企画情報など最新情報を発信。企画案内の充実を図り、幅広い情報を公開しています。



パルシステムの取り組み

10のパルシステムが力を合わせ、関東近郊の1都10県の生活を支えます。

パルシステムは、1都10県にある10の生協で構成されるグループです。「安全で安心な商品」を「ご自宅までお届け」する供給事業を中心に、健康、環境などの分野で組合員のふだんの暮らしを支えます。



パルシステム
埼玉

パルシステム
新潟
ときめき生協

パルシステム
群馬

パルシステム
山梨

パルシステム
静岡



パルシステム
福島

パルシステム
茨城・栃木

パルシステム
千葉

パルシステム
東京

パルシステム
神奈川
ゆめコープ

パルシステム生活共同組合連合会
pal*system

パルシステム生活共同組合連合会とは

パルシステム生活共同組合連合会は、首都圏を中心とした生協で構成する連合会組織でパルシステム埼玉もその会員生協です。パルシステムグループ（会員生協と子会社）は、食を中心とした商品の供給事業や共済・保険事業、福祉事業などを展開します。



ほんもの実感 私たちの「選ぶ」が変える3つの行動テーマ

Action ①

「ほんもの」の価値を知り、一人ひとりが選択しよう！

Action ②

「ほんもの」をつくる生産者・メーカーと会おう！話そう、伝えよう！

Action ③

「ほんもの」をおいしくムダなく使いこなそう！



以上の3つの行動テーマを掲げ、「ほんもの」を選ぶことで世の中が変わることを目指していきます。

品質保証

パルシステムでは、組合員に届く商品が約束を守っているか、確かな品質であることを確認するために「仕様書管理」「商品検査」「工場点検」など徹底した品質管理を行なっています。組合員からの申し出など問題が起きた際には、原因調査の上、再発防止に向けて産地やメーカーと一緒に改善に取り組んでいます。



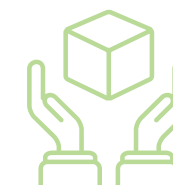
7つの約束

「食」と「農」をつなぎ、いのちの力があふれる社会を、次の世代にきちんと手渡したい。その思いを込めてパルシステムは、次の「7つの約束」の実現を目指して商品づくりを進めます。

- ① 作り手と「顔の見える関係」を築き、信頼から生み出された商品をお届けします。
- ② 食の基盤となる農を守るためにも国産を優先します。
- ③ 環境に配慮し、持続できる食生産のあり方を追求します。
- ④ 化学調味料不使用で、豊かな味覚を育みます。
- ⑤ 遺伝子組換えに「NO!」と言います。
- ⑥ 厳選した素材を使い、添加物にはできるだけ頼りません。
- ⑦ 組合員の声を反映させた商品づくりを大切にします。

生活用品への6つの想い

- ① 商品の成分や材質の基準を設けて、安心して安全な商品をお届けします。
- ② 森林を育み、「森」「川」「海」の環境を守り、石けん運動を広めます。
- ③ 再生原料の利用を推進し、限りある資源を有効に活用します。
- ④ 文化や技の継承・発展、国産のものづくりを応援します。
- ⑤ 「もの」を長く使い続ける良さを伝えます。
- ⑥ 組合員の声を反映させた商品づくりを大切にします。



あゆみ

- 1951** 蕨生協としてスタート
- 1971** 再建総会
- 1975** 南埼玉生活協同組合わかばと改称
- 1977** 首都圏コープ事業連合（現在のパルシステム連合会）に参加
- 1984** さきたまグリーン生協設立
- 1992** わかば生協、個別宅配事業開始
- 1994** わかば生協とさきたまグリーン生協が合併し、ドゥコープとしてスタート
- 1996** ソーラー電池照明、LPG 車の導入
- 1997** BMW システムによる中水施設を建設
いきいきネットワーク（家事援助活動）がスタート
- 1998** 薄層緑化など環境に配慮したセンターとして白岡センター移転新築
- 1999** 市民活動支援金開始
- 2000** ISO14001 の認証取得
韓国「プルン生活協同組合」（仁川市）との「日韓子ども交流」を開始
- 2001** 所沢センターを三芳町に移転し、三芳センターに改名
- 2006** 雨水利用設備や託児所などを備えた草加センターを新たに開所
- 2008** 食料自給率向上に向け「パルシステム 100 万人の食づくり」運動スタート
- 2009** 太陽光発電システムを導入した川越センターを新たに開所
- 2011** 埼玉県勤労者生活協同組合からパルシステム事業を譲受、パルシステム埼玉に名称変更
パルシステム埼玉蕨センターを建替え（太陽光発電、BMW システムを導入）
- 2012** パルシステムサービスセンター（略称：P S C）で組合員の声の一元管理スタート
- 2015** 「パルシステム埼玉東日本大震災復興支援助成金」を開始
- 2016** 組合員活動施設「ばる★てらす」がオープン
発電事業を担う（株）パルシステム発電を設立
- 2018** 消費生活協同組合制定 70 周年記念 厚生労働大臣表彰を受賞
障害者雇用優良事業所及び高齢者雇用優良事業所を対象とした埼玉県知事表彰を受賞
- 2019** 埼玉県内企業初となる「ウッズスタート宣言」を締結

事業所案内

本部・蕨センター
白岡センター
熊谷営業所

入間センター
草加センター
組合員活動施設「ばる★てらす」

大宮センター
東松山センター

川越センター
三芳センター